



【 6年生との授業（生き方学習） 】

- 13日（月）、プレイルームで6年生と、「生き方学習」と称した授業をしました。三つの節に分けた内容について話をしました。その中の一つは、富山グラウジーズの水戸健史選手について、次のような話をしました。

水戸選手は、「自分の役割がある」と言っていました。水戸選手の役割は、ディフェンス、スピードを生かしたプレー、積極的なリバウンドだと思います。チームのために、自分の役割をきちんと果たしていると、私には伝わります。皆さんにとって、学校や学級のために、委員会や係活動など、自分の役割をきちんと果たすことと同じです。

- また、私の中学校時代のマラソン大会のときの経験も話しました。

中学3年生のマラソン大会で1位を目指し、部活動を引退して運動不足だったので、夜、道を走って体を鍛えていました。数日後、足が痛くなって医者に行き、医者から「マラソン大会は出ない方がよい。」と言われました。ショックでしたが、なんとか大会に出ました。そして、先頭グループを走っていたところ、ライバルのK君が足をつりました。私は、助けようか、或いは、そのまま走ろうかと迷いました。

その後、「皆さんなら、どう考えて、どう判断して、どう行動しますか？」と聞きました。子供からは、「助ける。」「走る。」という意見が出ました。実際の私は、どうしようか迷い、助けるのがよいと判断しながらも、そのまま走り続けることを決断して走りました。「ここまで練習してきて、やはり中学校生活最後のマラソン大会を1位で終わりたいという思いが勝った。」と話しました（実際は、私は助けに近寄りましたが、K君は「走ってくれ。」と言ったのです。ありがたい友達だったと思います。その後私は走りながら、先生にK君が足をつったことを伝えました。）。私は、「私が言いたいのは、これから、自分がどう考え、どう判断し、どう行動するかということに出くわす時がある。そのとき、自分の考え、判断、行動（決断）をしっ
かりもつことです。」と話しました。

- 最後には、**卒業証書の意味**を伝え、**子供を思う親の心**について、我が子の例を出して話しました。とりとめのない話でしたが、少しでも伝えることができれば嬉しいです。

